



ハトダヨ
2024年
2月号

函館市中央図書館

編集・発行

函館市中央図書館 指定管理者

図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体

TEL:0138-35-5500 FAX:0138-35-5525

函館市中央図書館だより

第93号 令和6年2月1日 発行

予約 ランキング

予約数の多い本ランキングを紹介
します。こちらを参考に読みたい
本を探すのも一つの方法です。

令和6年1月20日現在、予約回数の多かった本をご案内しています。

- 1 あなたが誰かを殺した 東野 圭吾／著
- 2 ともぐい 河崎 秋子／著
- 3 汝、星のごとく 凧良 ゆう／著
- 4 魔女と過ごした七日間 東野 圭吾／著
- 5 くもをさがす 西 加奈子／著
- 6 ヒロイン 桜木 紫乃／著
- 7 青瓜不動 宮部 みゆき／著
- 8 星を編む 凧良 ゆう／著
- 9 人間標本 湊 かなえ／著
- 10 黄色い家 川上 未映子／著

図書館俳句ポスト受賞者

10月俳句ポストへ応募された中から選ばれた作品です。お題は「紅葉(もみじ)」。

入選

着工の日取り決まるや秋日和
橋越えるごとに小島の薄紅葉
海底を抜け津軽平野は秋高く
海峡をのぞむ里あり初時雨
過去帳の筆跡は父小春かな

銀子
松浦学
田川管子
安福巖
小野寺礼子

佳作

煎餅を丸く齧りぬ秋時雨
菊人形戦国の世を負けた顔

菊地利春
中西芳之

函館市中央図書館「ひな祭りイベント」

親子で
図書館へ

お話会と工作

日時：令和6年3月2日(土) 10時～11時30分

場所：中央図書館 2階大研修室

定員：こども10人(申込が必要です)

3歳から小学校低学年まで親子で参加

申込：2月16日(金) 9時30分から

お電話または児童カウンターで受付

詳しくは館内のチラシ・ポスターをご覧ください



ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

場所：A25～30
請求記号：914.6ナシ

タイトル：「風と双眼鏡、膝掛け毛布」

著者：梨木 香歩 出版社：筑摩書房 （2020年3月）

北海道から沖縄まで、日本各地に足を運んで出会った地名にまつわるエッセイ集。「ざわっとする地名」には毒沢、銭函、無音、「アイヌ文化由来の地名」には蕪島、種差、星置など、印象的な地名がたくさん。その語に想像をふくらませ、地名が名づけられた由来をひもといていくと、土地ひとつひとつに歴史の積み重ねと物語を感じます。動植物や自然が織り込まれた作品が多い著者ならではの柔らかな考察が魅力です。

場所：A13～15
請求記号：385.9ナシ

タイトル：「もっと！「育ちがいい人」だけが知っていること」

著者：諏内 えみ 出版社：ダイヤモンド社 （2021年9月）

こんな時どうすればいいの？とか何となく知っているけど本当に正しいの？と思う所作やマナーについて解説してくれる本です。こんな気遣いをできたらいいなとか、してもらえると嬉しいなと思う内容が具体的な例として挙げられています。

「品」や「育ち」とは上手くいっていないときこそ周りに優しく丁寧な振る舞いができるかということ。今までの自分自身の行動を見つめ直すことができます。

場所：A25～30
請求記号：914.68シメ

タイトル：「×切本」

著者：左右社編集部 出版社：左右社 （2016年9月）

志賀直哉、夏目漱石、泉鏡花など名だたる小説家たちも、現代で活躍する作家も、いつだって×切と共に歩み編集者の冷たい視線に背中を刺されながら机に向かってきました。

それでも守れず破ってしまうのが×切の宿命。落とした直後から作家と編集者の駆け引きが始まります。ある人は泣き落とし、ある人は怒り、そしてまたある人は……。

爆発する十人十色の×切への愛憎や悲喜こもごもに共感し、笑えること請け合いです。

90人の作家たちの×切にまつわるエッセーや対談、手紙などを収録した究極にニッチな一冊をどうぞ。

館長随想（二十三）



図書館に勤めておりますと、「本がお好きなのですね」といような方からお言葉をいただくことがあります。

確かに私は本も好きなのですが、本当は「言葉（ことば）」が好きなのです。言語、というべきでしょうか。

言葉は時代を生きていて変化していると思います。若年層を中心に流行る言葉も多いですが、時代を反映しています。

日本語は難しいけど面白いと外国籍の大学の先生がご講演されていました。「自分」は辞書では一人称ですが、関西を中心に二人称になるところがとても面白いというのです。

「自分は函館市民です」これは一人称ですが、

「どうなん、自分？（どう思っているのか、君は？）」という二人称になる、と話され、とても興味深いと話されていました。

どの国の言葉でも、多少平易であってもゆっくり優しく話すと丁寧語になるという先生のお考えも共感できるものでした。

2月から中央図書館ゲート入り口の柱に中川蘆月先生の書を飾ることにしました。「この命にありがとう」と書かれ、入館される方を迎えてくれます。この書は「命」の部分が大きく膨らみ、中川先生の温かなお人柄を感じさせてくださる作品となっております。

口に出してみますと、やはりゆっくり伝えたほうが相手にも自分にも心地よく伝わるように思います。

本にはときに人間の苦しみや辛さが書かれてあったりするものですが、そのときはやや速めに言葉が過ぎていく感じでしょうか。

2月は受験シーズンです。あともう少しですので全力を尽くしてほしいです。受験は一つの通過点です。この書に迎えられ一日一日を大切に過ごしていただきたいです。

（館長 落合仁子）

デジタル資料館 紹介



節分豆まき（ph005530）

今回デジタル資料館からご紹介する一枚はこちら。

昭和 37 年に江差町のかしわぎ保育園で撮影されたものです。子どもたちが豆まきをする姿が楽し気ですね。豆まきの豆は炒った大豆派と落花生派に分かれていますが、皆さんはどちらが馴染み深いですか？

てがみ か 手紙を書くことは ありますか？

2月3日は
絵手紙の日

「ふみ」と読むことができ、
節分でもある2月3日は
「絵手紙を送って、『福』を配ろう」
という意味で制定された。

日本絵手紙協会 HP より抜粋

スマートフォンやパソコンを使う現代社会において、
手紙を書く機会が減っているかと思います。大事な時、
大切な人に言葉を贈る時、手紙はコミュニケーションの
一つとして大きな役割を果たしてくれます。



港図書室と旭岡図書室では **3月10日（日）** まで

『読む、書く、描く「手紙」』と題し、手紙や

絵手紙の書き方に関する本を展示しています。

あなたの想いを手紙で伝えてみませんか？

中央・港・旭岡所蔵の本を
少しだけ紹介します！

『カラー筆ペンで楽しむはじめての絵手紙』

朝日新聞出版／編著 724 カラ

※中央・旭岡・港

『絵手紙は人生へのラブレター』

安達 アツ子／著 724 アタ ※中央のみ

『ことばのヒント絵手紙365日』

大森 節子／著 724 オオ ※中央・旭岡



『カラー筆ペン2色で描ける花の絵手紙』

朝日新聞出版／編著 724 カラ ※中央・港

『絵てがみ 美しい日本を巡る旅のことば選び』

吉水 咲子／著 724 ヨシ ※港のみ

『手紙の文例・マナー新事典』

中川 越／著 816.6 テカ ※中央・港

